

令和7年9月26日 作成 金展

令和7年10月10日 修正 金展

## ビーム物理領域インフォーマルミーティング 2025

### 議事録

日時：2025年9月17日(水) 17:30-18:00

開催方式：対面（広島大学 東広島キャンパス B155会場）

出席者(順不同・敬称略)：28名

小島 完興 (QST), 金展 (大阪大), 中沢 雄河 (KEK), 小原 脩平 (QST), 菅 晃一 (QST), 坂上 和之 (東京大), 安積 隆夫 (QST), 満田 史織 (KEK), 平田 光司 (KEK), 稲葉 健斗 (QST), 丸 征那 (東京大), 島田 美帆 (KEK), 大谷 将士 (KEK), 畑 昌育 (QST), 郭 磊 (広島大), 全 炳俊 (京都大), 岩下 芳久 (大阪大), 栗木 雅夫 (広島大), 内藤 大地 (KEK), 羽島 良一 (QST), 内藤 圭祐 (大阪大), 久保田 重丸 (大阪大), 佐藤 新悟 (大阪大), 原田 寛之 (JAEA), 田村 文彦 (JAEA), 川瀬 啓悟 (QST), 神門 正城 (QST), 小瀧 秀行 (QST),

進行：小原、安積

書記：金、守屋

### 議事内容

1. 前回議事録確認[審議(承認)事項]
2. 報告・審議事項
  - 2-1. 日本物理学会ビーム物理領域 [大会関連]
    - 2-1-1. 一般講演
    - 2-1-2. [領域運営関連]合同セッション
    - 2-1-3. 招待・企画・シンポジウム講演
    - 2-1-4. 若手奨励賞について

- 2-1-5. 日本物理学会 学生優秀発表賞について
- 2-1-6. 来年度春季, 年次大会までのスケジュール
- 2-1-7. [報告] 執行部と事務局の確認(2025/04-2027/03 について)
- 2-1-8. [審議(承認)事項] 次期領域運営委員 (2026/04-2027/03 について)
- 2-1-9. [報告] 80 周年記念国際シンポジウム開催(2026 年 9 月)のお知らせ
- 2-1-10. [報告] 領域のあり方と現状の課題についての意見を伺います
- 2-2. ビーム物理研究会関連 [研究会関連]
  - 2-2-1. 2024 年度ビーム物理研究会・若手の会開催報告(QST 小島氏)
  - 2-2-2. 2025 年度ビーム物理研究会・若手の会の計画について (KEK 満田氏) [研究会運営関連]
  - 2-2-3. 若手の会の活動報告(KEK 大谷氏)
- 2-3. 日本加速器学会関連
  - 2-3-1. 第 22 回 日本加速器学会年会 開催概要
  - 2-3-2. 第 23 回日本加速器学会年会のお知らせ
- 3. その他
  - 3-1. 次回の総会・拡大幹事会[審議事項]

## 1. 前回議事録確認[審議(承認)事項]

前回: 2025/03/13 ビーム物理研究会総会 2025 (対面/オンライン開催)

前回議事録: 9 月 2 日にビーム物理研究会・若手の会 ML 配布済み。賛成多数で承認。

## 2. 報告・審議事項

### 2-1. 日本物理学会ビーム物理領域 [大会関連]

#### 2-1-1. 一般講演

一般講演の件数及び内訳についての報告があった。2025 年ビーム物理領域では年次大会のみでセッションを実施しており、2025 年 9 月の第 80 回年次大会ではビーム物理領域にお

ける講演数は合計 92 件で、内訳は下記の通り。

- ・一般講演 58 件、うち合同一般講演 9 件
- ・合同企画講演 0 件
- ・主催シンポジウム 2 件で 14 講演、他領域主催シンポ 2 件で 17 講演
- ・若手奨励賞受賞記念 3 講演(うち 1 講演は受賞理由説明)

全講演件数は昨年度より約 10 件少なく、概ね例年並みである。他領域と比べると少ない。

全領域概要集提出率は例年約 90%であるが、今回は 86%であり、ここ数年で最も低い。提出率 100%を達成するよう協力を求める。

所属機関別内訳：14 機関、推移は横ばい。

#### 2-1-2. [領域運営関連]合同セッション

領域 2 との合同セッションは奇数年が領域 2 主催、偶数年がビーム物理領域主催ということで今回は領域 2 が主催した。その他、ビーム物理領域が主催した合同セッションは以下となる。

- ・ レーザープラズマ  
1 件 (領域 2 と合同)
- ・ 線型加速器/FEL  
1 件 (領域 1 と合同)
- ・ イオントラップ・レーザープラズマ  
5 件 (領域 2 と合同)  
1 件 (領域 10 と合同)

#### 2-1-3. 招待・企画・シンポジウム講演

第 80 回年次大会では、以下の主催 2 件、共催 2 件のシンポジウムを実施した。

- ◆ (主催) ビーム物理領域  
「最先端物理実験における超伝導加速器の意義と開発現状」
- ◆ (主催) ビーム物理領域

(共催) 計算物理領域, 領域 2

「核融合分野に貢献する大強度ハドロンビームの開発」

◆ (共催) 素粒子実験領域

(共催) 素粒子論領域, 理論核物理領域, 実験核物理領域, 宇宙線・宇宙物理領域,  
ビーム物理領域, 計算物理領域

「BSM はどこからくるか? 素粒子フロンティア加速器実験の現在地と行方」

◆ (共催) 領域 1

(共催) ビーム物理領域, 領域 2, 領域 10

「先端電子ビーム技術と特殊電磁場制御の融合」

#### 2-1-4. 若手奨励賞について

第 19 回(2025 年)の受賞者: 2 名

○ 中沢 雄河氏 (理研仁科)

「J-PARC ミューオン g-2/EDM 精密測定実験における ミューオン線形加速器の開発に係る研究」

○ 藍 沢塵氏 (QST 関西研)

「レーザー駆動中性子共鳴分光によるシングルショット温度計測技術の開発」

今回 2025 年 9 月 17 日の物理学会ビーム物理領域で受賞記念講演を実施。

第 20 回 (2026 年) の応募〆切済み。

表彰件数 2 名以内

応募または推薦の締切 2025 年 8 月 31 日

- 詳細は研究会 ML または HP を参照 <http://beam-physics.kek.jp/bpc/>

#### 2-1-5. 日本物理学会 学生優秀発表賞について

- ビーム物理領域では、2019 年春季大会から学生優秀発表賞の審査および授与を開始。
- 講演申込み時にエントリーする。概要原稿の提出必須。
- 2025 年は合計 16 名(昨年度比較 1 名増)の申し込みがあった。

#### 2-1-6. 来年度春季，年次大会までのスケジュール

- ◆ 2026 年春季大会（素核宇・物性）

会期：2026 年 3 月 23 日（月）～26 日（木）

会場：オンライン開催

- ◆ 2026 年第 81 回年次大会

会期：2026 年 9 月 14 日（月）～17 日（木）

会場：東京大学（駒場キャンパス）

#### 2-1-7. [報告] 執行部と事務局の確認(2025/04-2027/03 について)

現在（任期 2025 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日）

以下の執行部体制となっている。

「ビーム物理研究会」

会長：安積隆夫（QST、ナノテラス）

副会長：神門 正城（QST, 関西研）、満田史織(KEK)

「日本物理学会ビーム物理領域」

代表：安積隆夫（QST、ナノテラス）

副代表：満田史織(KEK)

「事務局」（2025 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日）

〒980-0845

宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 468-1 ナノテラス

国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構

NanoTerasu センター

#### 2-1-8. [審議(承認)事項] 次期領域運営委員（2026/04-2027/03 について）

領域運営委員の金 展氏（阪大産研）の後任として、QST 関西光量子科学研究所の畑 昌育氏が推薦され承認された。任期は 2026 年 4 月から 2027 年 4 月までの 1 年間となる。

任期	領域運営委員
2024/04～2025/03	西 隆博
2024/10～2025/09	小原 脩平 (現)
2025/04～2026/03	金 展 (現)
2025/10～2026/09	守屋 克洋 (引き継ぎ中)
2026/04～2027/03	畑 昌育(本会で決定)

#### 2-1-9. [報告] 80周年記念国際シンポジウム開催(2026年9月)のお知らせ

- 来年、日本物理学会設立 80 周年を記念して国際シンポジウムを開催する。
- 本シンポジウム
  - ◆ 日程、場所：2026 年 9 月 13 日（日）、東京大学駒場キャンパス
  - ◆ 国際的に活躍する研究者約 10 名の招待講演を中心に構成する。
  - ◆ 人選や参加登録などの詳細は現在、実行委員会で検討中である。
- 第 81 回年次大会（9 月 14 日～17 日、東大駒場）でも本シンポジウムと関連したサテライトシンポジウム（国際シンポジウム、4 本程度）を企画する。
  - ◆ 形式は大会のシンポジウムと同じですが、国外からの講演者の旅費等を学会が一部負担する。
  - ◆ 本シンポジウムの講演者が固まった後、実行委員会でテーマを設定し、関連する研究者に企画していただくようお声がけします（2025 年 12 月頃）。協力を求める。
  - ◆ 領域から提案されるシンポジウムとのコンフリクトを避けるため、2026 年 3 月までにはサテライトシンポジウムのプログラム案を決定、周知する予定。最終的には 6 月の領域委員会で要承認。

#### 2-1-10. [報告] 領域のあり方と現状の課題についての意見を伺います

大会で領域制が導入されてからおよそ四半世紀が経過する。当初は 5 年をめぐりに領域の構成を再検討することとなっていたが、実行されないまま今日に至っている。このような状況のもと、物性分野の一部領域から運営に支障をきたしているとの相談が理事会に寄せられ

ている。そこで、今後の検討材料とするため、物性領域（領域 1 から領域 12 まで）で活動する会員に以下を尋ねる。

- 当領域の運営に支障があるかどうかなど、現状の課題
- 領域のあるべき姿についての意見
  - 当領域に関するもの、物性の領域全体にわたるものなど、どのレベルでもよい
- その他、領域制に関する意見

（ビーム物理領域は該当しない。）

## 2-2. ビーム物理研究会関連 [研究会関連]

### 2-2-1. 2024 年度ビーム物理研究会・若手の会開催報告(QST 小島氏)

開催日・開催場所：

「ビーム物理研究会」

2025 年 3 月 12 日（水）、3 月 13 日（木）

関西光量子科学研究所多目的ホール（京都府木津川市）

「若手の会」

2025 年 3 月 14 日（金）

けいはんなプラザナイル B（京都府精華町）

参加者：計 68 名（一般 39 名、学生 29 名 [うち女性 5 名]）

世話人：小島 完興（連絡責任者・量研関西研）、黄開（量研関西研）、羽島 良一（量研関西研）、神門 正城（量研関西研）

本会では一般講演 14 件が行われた。3 月 13 日（木）午後に関西研見学会を開催した。

「若手発表賞」

- 永山 晶大（東北大学）：「遅い取り出し大強度化のための非破壊型静電セプトラムの開発」
- 丸 征那（東京大学）：「レーザー誘電体加速の加速用マイクロ構造の設計研究」

「若手ポスター発表賞」

- 松井 昇大朗：「RF 同期型レーザーイオン源の開発状況」

- ◆ 室尾 健人: 「超精密単一イオンビーム生成に向けた新型線形ポールトラップの開発」
- ◆ 大石 沙也加: 「超短パルスビームによる表面相互作用評価のためのレーザー駆動イオン加速ビーム入射法の開発」

「アンケート結果と引き継ぎ事項」

若手発表賞や若手ポスター賞の運営・選考方法に関して改善すべき点があれば記入してください。

- ◆ 若手ポスター賞は発表時間に対して枚数が多いため、今回の方式での公平な審査は難しいと思う。
- ◆ 若手ポスター賞に関しては発表時間が少なかったため、少し評価に苦労しました。もう少し時間が取ればよかったかなと思います。
- ◆ 60 分間（時間は曖昧）で自分の発表と他の人のを見て回るのは、少しばかり時間の制約が厳しく感じた。せめて 50 分/50 分の前後半でのコアタイム制の方が、今の全員審査に適していると思う。

今後の研究会の運営に関して改善すべき点があれば記入してください。

- ◆ より多くの所属の方に参加してもらえるように呼び掛けてほしい。
- ◆ 個人的には研究会期間中の会場及び宿泊場所が日ごとに変わらない方が良いと思う。
- ◆ 口頭での発表時間（とくに若手の発表）をもう少し伸ばした方が良いかもしれません。現在の時間枠では議論らしい議論にはほとんどならない気がしました。

## 2-2-2. 2025 年度ビーム物理研究会・若手の会の計画について (KEK 満田氏) [研究会運営 関連]

主催：KEK,

共催：ビーム物理研究会・若手の会, 加速器奨励会, JPS

時期：若手 2026/03/17(火), 本会 03/18(水)–03/19(木)

場所：KEK 小林ホール及びヒカリエラウンジ

宿泊：KEK 宿泊施設

バンケット：KEK ヒカリエラウンジ

補助：若手層への交通費補填を検討

### 2-2-3. 若手の会の活動報告(KEK 大谷氏)

「会員数の推移」

- ◆ 2018年5月21日から会員申込開始
- ◆ 2025年8月末現在 146名
- ◆ ここ数年は微増（数人/年）傾向

「第11回企画研究会「先端原子力技術を支える加速器・ビーム物理」を開催」

提案者：井上 翔一さん(長岡技科大学部生、第9回提案に続き2回目)

日時：8月5日 14:30～18:30(加速器学会年会前日)

会場：東大本郷キャンパス + リモート

現地参加 14名+リモート 33名

タイムテーブル

氏名	所属	講演タイトル
石川 法人	JAEA	セラミックスを対象とした重粒子照射損傷学
奥野 広樹	理研	大強度重陽子線形加速器による中性子発生
田村 潤	JAEA	ADS 実現に向けた超伝導スポーク空洞の開発
長谷川 和男	QST	核融合炉材料開発に向けた IFMIF 計画の概要
遠藤 駿典	JAEA	原子炉設計のための中性子入射核反応データの取得
森 義治	京大	加速器科学と原子力 - 固定磁場強集束加速器(FFA) とミュオン核変換/触媒核融合 -

引き続き参加者からの魅力的な提案を待つ。

「加速器・レーザースクール開催」

現在開催中の物理学学会年会に先立ち、14日・15日に開催。

「ビーム物理研究会 2025」

日程：2026年3月17日～19日（若手の会→本会）

開催場所：KEK つくばキャンパス他

参加を待つ。企業関係者を含め、積極的に声をかけるよう求める。

## 2-3. 日本加速器学会関連

### 2-3-1. 第 22 回 日本加速器学会年会 開催概要

共催： 東京科学大学総合研究院ゼロカーボンエネルギー研究所、東京都市大学理工学部原子力安全工学科/理工学部原子力研究所、東京大学大学院工学系研究科原子力専攻

会期： 2025 年 8 月 6 日（水）～8 日（金）

開催地： 東京都

会場： 東京都市大学 世田谷キャンパス

懇親会： 会場内で実施

実施体制：

実行委員長                   ： 林崎 規託   （東京科学大学）

プログラム委員長           ： 坂上 和之   （東京大学）

副実行委員長                ： 羽倉 尚人   （東京都市大学）

### 2-3-2. 第 23 回日本加速器学会年会のお知らせ

第 23 回 日本加速器学会年会 開催概要

共催（予定）： QST NanoTerasu センター、東北大学 RARiS

会期： 2026 年 8 月 26 日（水）～28 日（金）

開催地： 宮城県仙台市

会場： 仙台国際センター 展示棟

特別講演： 実施予定

懇親会： 仙台市内

見学： 資料内未記載(未定)

実施体制：

実行委員長                ： 西森 信行   （QST）

プログラム委員長： 安積 隆夫 (QST)  
副実行委員長： 伊藤 正俊 (東北大)  
副実行委員長： 上島 考太 (QST)

### 3. その他

#### 3-1. 次回の総会・拡大幹事会[審議事項]

次回の総会

2026年3月に KEK でのビーム物理研究会中(3/17~19) に行う。

「KEK でのビーム物理研究会の会期中に対面（またはハイブリッド）で行うことを前提とし、研究会のプログラム編成等を考慮した上で、最終的な日時決定を領域代表に委ねる」として、賛成多数により承認された。